

Sound

vol. 69

2026 SPRING

住友病院だより【さうんど】

特集

専属性の高いチームで急性期リハビリテーションを提供
リハビリテーション科

New 専門/認定看護師紹介
慢性疾患看護専門看護師

New Doctor's Message
みなさん、靴は正しく履けていますか？

- 連携医療機関
みなと通り整形外科
ももぞの泌尿器科クリニック

● INFORMATION



専属性の高いチームで急性期リハビリテーションを提供

リハビリテーション科

現在のリハビリのスタンダードを理解し、リハビリ療法士を増員、チーム医療の強化、休日を含めた充実のリハビリを行う

近年はさまざまな低侵襲手術が行われ、早期離床が可能になりました。また早期リハビリの有効性が知られるようになり、術後すぐにリハビリを始めることがスタンダードになってきています。

動けない時間が長引くことで身体機能が低下し、寝たきりや廃用症候群(※)のリスクにつながる高齢者にとって、よりよい予後が見込めるようになったと言えるでしょう。なかには手術の予定が決まった時点から介入することもあるため、患者さまにはリハビリの重要性を理解したうえでリハビリに臨んでいただけるよう、オリエンテーションでしっかりと説明することにも重きを置いています。

急性期病院である当院は、以前にも増して救急の受け入れ件数が拡大しています。それに対応するため理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を大幅に増員しました。以前は部分的にしかできていなかった「がんりハビリ」や、体力などの低下が進んだ高齢者に対するリハビリも、ずいぶん多く対応できるようになってきました。土・日曜日、祝日のリハビリを導入できたのも、人員を増強したためです。

外科や内科など、他科で行われるカンファレンスに、リハビリ専門職である療法士が加わる機会が増えたのも大きな変化です。このカンファレンスでは医師、看護師、社会福祉士、療法士などの多職種で作るチーム全員で、患者さま個々の状態を検討し、より早く動けるようになり、社会復帰をするという同じ方向をめざして治療に取り組むようになっていきます。そうしたチーム医療の徹底が、リハビリを必要とする患者さまを見落とさずいち早く対応し、不安なく退院できる状況を作り、回復期病院へ転院する場合も日常生活へ戻るための土台となっているのです。

※廃用症候群
動かない時間が長いことで筋肉がやせたり、関節が固まったり、気持ちの落ち込みや物忘れなど、体と心のさまざまな機能が弱ってしまった状態

川上 秀夫
かわかみ ひでお

リハビリテーション科診療主任部長
兼整形外科診療部長
兼人工関節センター副センター長

効果の高い周術期・急性期の早期リハビリで安心の社会復帰と日常生活へつなげる

疾患別に設けられた施設基準をすべて「施設基準(グレード)I」で維持し、専門的かつ広範囲のリハビリを提供しているリハビリテーション科。住友病院のリハビリテーションが強化していることをご紹介します。

理学療法

運動器リハビリ

理学療法は起き上がり、立ち、歩くなどの基本的動作能力の回復を目的とします。運動器とは骨、関節、筋肉など身体を動かすための器官・組織を指し、運動器リハビリは、骨折や人工関節などの手術を受けた方を対象とします。基本的に術前からリハビリを始め、術後もできるだけ早くベッドから起き、歩いて、あるいは車いすに乗ってご自身でトイレに行けるようにするといったところから始めています。関節がどこまで動くか、どのような動きで痛みが出るかをきちんと評価・分析し、できるだけ痛みのないリハビリを心がけて早期離床、早期回復に力を注いでいます。

脳血管リハビリ

脳卒中やパーキンソン病などの神経筋疾患の患者さまが主な対象です。脳卒中は身体機能や日常生活動作以外にも話す、聞く、理解するといった高次脳機能にも障害が生じ

主に「運動器リハビリ」、「脳血管リハビリ」、「心臓リハビリ」、「呼吸器リハビリ」、「がんりハビリ」の5つのリハビリに分けられます。

るので、作業療法や言語聴覚療法も含めた介入が必要になります。理学療法では運動麻痺に対してトレーニングを行い、歩くや立つなど基本的動作能力を獲得することが主な目的となります。トレーニングと言っても筋トレとは少し違って、動きにくい部分を療法士がアシストし運動を繰り返すことで、身体を動かすための脳のネットワークを再構築するイメージです。

心臓リハビリ

狭心症や弁膜症で計画的入院をされた患者さまには、早期離床目的に手術前からリハビリを開始しています。また、心不全により緊急入院した患者さまにも早期からのリハビリを実施しています。心臓の病気なのに運動すると負担になるんじゃないかと心配されると思いますが、手術の内容、術後の日数、血圧や脈拍、患者さまの自覚症状などを確認しながら、適度な負荷をかけて行っています。術後すぐのリハビリは、ICU(集中治療室)やHCU(高

呼吸器リハビリ

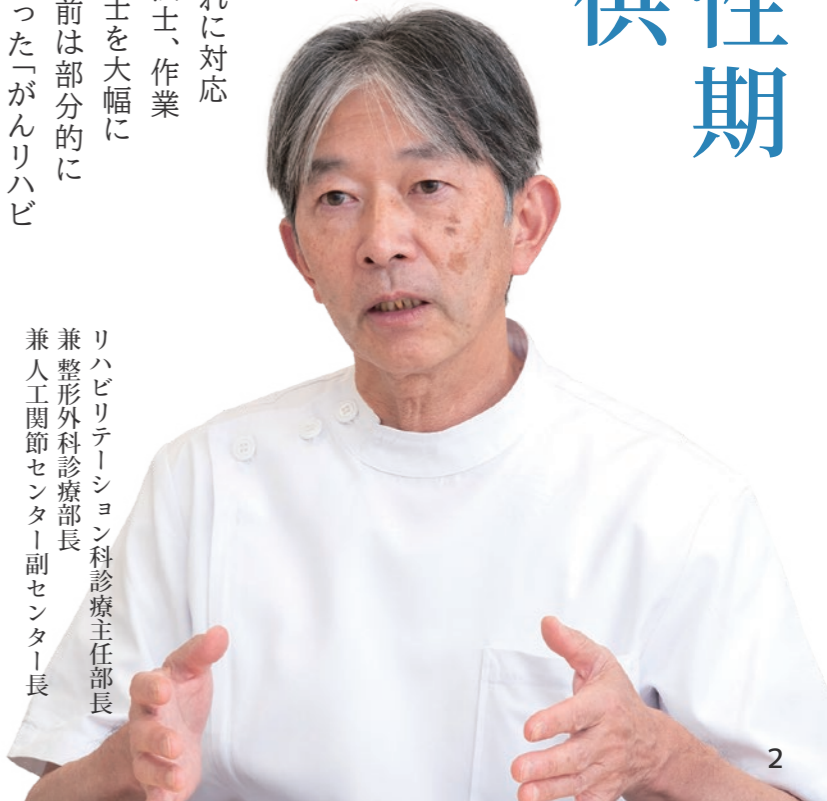
COPD(慢性閉塞性肺疾患)、間質性肺炎、誤嚥性肺炎などの肺炎全般、肺がんの患者さまが対象となります。運動器リハビリと同様に身体を動かしますが、あくまで呼吸器のためであり、肺から全身に酸素を行き渡らせる酸素化と、息切れせずに身体を動かせるだけの運動耐容能を維持・回復させるためのリハビリになります。横隔膜の動きが制限されて呼吸が浅くなる屈む動作や、呼吸を止める食事については、作業療法士と協力してリハビリを行い、ゆっく

り分けて食事を摂るなど無理なく生活できる方法を探っていくことでもあります。



リハビリテーション技術科科長
理学療法士

青木 利彦
あおき としひこ



がんリハビリ

がんリハビリは、診断されてから終末期までが対象になります。手術や放射線治療、抗がん剤治療を受ける体力が低下するため、入院後早期からリハビリを始めることで筋力や持久力を保つことができます。

治療中もリハビリを行い、抗がん剤治療を継続できるだけの体力を維持しつつ、退院時にはもとの社会生活に戻りやすくすることも目的としています。終末期においては自宅療養を希望される方が多いので、自宅で困らないよう生活動作の練習も行います。また、痛みをとまなう患者さまには、疼痛緩和を目的としたリラクゼーション的なマッサージや、ベッドから離れること自体もリハビリになりますので気分転換も兼ねた車いすでの外出なども行っています。

取材協力 理学療法士 中村 慎也
理学療法士 高森 宜行



作業療法

その人に必要な動作のためのオーダーメイドリハビリを実施

作業療法では起きる、立つ、座る、食事をする、入浴するなど、あらゆる日常生活動作を作業と捉えます。私たちはリハビリに入る前にまず患者さまと面接し、そこでニーズを聞き出します。仕事で文字を書きたい、パソコンをタイプしたいというご希望なら手指の分離運動を積極的にを行い、うまく動くようコントロールできるようにします。主婦の方で料理したいというご希望なら野菜を切る、炒めるといった動作を訓練するなど、患者さまのご要望とそれに対するリハビリはさまざまです。漠然と歩きたいという要望でも、買い物に行く程度でいいのか、旅行に行きたいのかでゴールは変わります。早くから患者さまと信頼関係を築き、そこを聞き出すことが作業療法の本質かもしれません。

く、真摯に耳を傾け信頼関係を築くことを優先します。自らを治療道具の一つと位置づけ「この人とならリハビリをしてもいい」と思ってもらえるような環境設定や、ご家族など周囲の人を褒めることで患者さまの自己肯定感を高めるなど、まず心を動かすことから始め、体を動かす力を生み出します。

作業療法でもがんリハビリを行っています。体力づくりの面では自宅に帰ったときを想定して、階段の昇り降りや荷物の上げ下ろしといった生活動作に少し負荷を加えたかたちでリハビリを行います。緩和的な面では、患者さまの趣味など元気になったときやりたい活動にチャレンジします。特に物づくり作業活動が多いかもしれません。先ほどの心へのアプローチと同様に、ご家族や大切な人へ作ったものを贈るといった思いが、心を安定させるからです。終末期の患者さまに対しては、共に過ごす時間



言語聴覚療法

人にとって欠かせない「話す」「食べる」動作を回復することをサポート

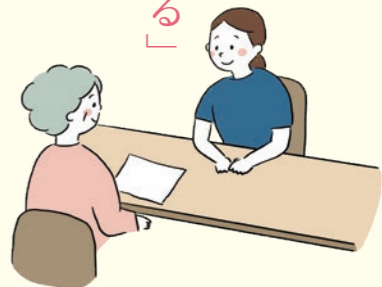
主に言語聴覚士が担当します。専門領域は、その名の通り失語症など言葉に関する障害のほか、首周りの手術や怪我、廃用症候群の進行による嚥下障害などです。言葉で伝える、食べるという動作は、日常生活のなかで不可欠なものであり、できないということは大きなストレスにつながります。これらの障害を改善、緩和するのが言語聴覚士の仕事です。

失語症と言っても患者さまによって状態はさまざまで、呂律がまわらない、言葉が出なくなる、聞いたり書いたり読んだりができない、喉をうまく使えなくて声が出ないなどがあります。

嚥下障害に対しては喉のトレーニングを行います。例えば重い荷物を持つとき、人は首周辺に力が入ります。そういった生理的な反応を利用した手法も取り入れています。

取材協力 作業療法士 岡田 守弘

そのものが治療となります。24時間の苦痛のうち、対話する20分間だけでも痛みを忘れられるような、平板化した心に感情の波を作る関わりをめぐらせています。



一見するとりハビリとは直接結びつかないような疾患の患者さまも多く担当します。例えば心臓の手術で喉に挿管した影響により、声が出にくくなった患者さまなども対象になります。

また言語聴覚士には他のリハビリ職種とは異なるコミュニケーションの役割があります。体を大きく動かす理学療法に対し、言語聴覚療法は座って一対一で向き合い、じっくり対話する時間が長いのが特徴です。そのため、患者さまは心の内にある想いをふとした折に話してくださいることが多くあります。こうした対話を通じて得られた情報を医師や看護師とも共有し、チームで患者さまを支えるための橋渡しをすることも大切な役割の一つです。

取材協力 言語聴覚士 中地 めぐみ



リハビリテーション科

川上秀夫診療主任部長以下、理学療法士24名、作業療法士8名、言語聴覚士4名が在籍しています。それぞれに認定試験などに合格した充実した人員体制でリハビリテーション診療を行っています。



外科や内科など他科と一緒に行われるカンファレンスにも参加しています

取得資格一覧

取得資格	人数	取得資格	人数
博士	1人	サルコペニア・フレイル指導士	1人
修士	3人	心不全療養指導士	1人
専門理学療法士	2人	公認心理師	1人
認定理学療法士	7人	臨床実習指導者講習会修了	15人
3学会合同呼吸療法認定士	13人	福祉住環境コーディネーター2級	1人
がんのリハビリテーション研修修了	31人	終末期ケア専門士	1人
心臓リハビリテーション指導士	3人		

2026年4月現在



連携医療機関のご紹介

住友病院では地域の医療機関との相互連携を密にし、最善の治療環境の実現をめざしています。このコーナーでは、当院の連携医としてご協力いただいている先生方をご紹介します。

みなと通り整形外科

診療科目：整形外科、リハビリテーション科

〒550-0027 大阪市西区九条1-18-5
ウエルシア2F
TEL 06-6584-3711



院長 篠原 良和 Yoshikazu Shinohara

●アクセス

阪神なんば線・
Osaka Metro中央線
「九条」駅より徒歩3分



公式ホームページ



みなと通りに面したドラッグストア「ウエルシア」の2階に2025年12月に開院された「みなと通り整形外科」。清潔なホワイトとブルーを基調とし、自然光が差し込む明るいクリニックです。

▶篠原良和院長は脊椎外科を専門とされてきたと聞きました。

はい。総合病院では専門性の高い治療や手術を、クリニックでは首や腰、関節の痛みの治療や注射などを行ってきました。また骨粗しょう症の早期発見やスポーツ障害、リハビリテーションの診療にも力を入れてまいりました。こうした経験をもとに、専門性を持ちつつも、小さなお子さまから高齢の方まで、さまざまな症状に対応できる「総合整形外科医」としての診療を目指しています。

▶検査機器やリハビリテーションの設備も整っています。

信頼性の高い骨密度測定機器やレントゲン機器を揃えています。広々としたリハビリテーション室では、さまざまな疾患やスポーツ障害治療に取り組んできた経験豊富な理学療法士を中心に、患者さま一人ひとりに応じた最適なプログラムをご提供しています。

▶メッセージをお願いします。

私は小学校から高校まで長年にわたり剣道に打ち込んでまいりました。剣道で学んだ「心を澄まし、技を磨き、礼を尽くす」という武道の教えを大切に、地域の皆さまが笑顔で暮らせるようサポートできればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

高度な看護を行うスペシャリスト Vol.1

専門／認定看護師紹介

慢性疾患看護専門看護師は、慢性的な病気を抱えながらも住み慣れた場所で「自分らしく」過ごせるよう専門的な知識で生活を支える看護師です。私は、主に糖尿病や腎臓病などが悪化しないよう予防活動に取り組んでいます。「腎代替療法選択外来」では、仕事や趣味など大切にしている習慣と治療の両立を共に考え、納得して治療やケアが選べるようお手伝いしています。また、患者さまを中心に医師や専門スタッフが円滑に連携できるようにチームの調整役を担っています。

さらに倫理の専門家として、医療チームが「患者さまにとっての最善」を最優先に対話できるようなサポートし、患者さまの希望や価値



腎センター看護師長
うちだ てるみ
内田 輝美
慢性疾患看護専門看護師

日本看護協会が認定する特定の看護分野において高い知識と技術を持ち、複雑な看護課題に対応する看護師です。臨床実践に加え、コンサルテーション(相談)、調整、倫理調整、教育、研究を担い、ケアの質向上と人材育成に貢献します。5年以上の実務経験を基盤に、看護系大学院修士課程修了後、認定審査に合格して資格を取得します。

慢性疾患看護専門看護師
糖尿病や腎臓病、難病など長期にわたる疾患や障害を持つ患者さまとそのご家族に対し、高度な知識・技術を用いてセルフマネジメントや急性増悪予防、QOL向上を支援する看護スペシャリストです。



ももぞの泌尿器科クリニックは、大阪市西区、阿波座・西長堀駅から徒歩圏内で駐車場もあるフレスポ阿波座に、親身で温かみのある泌尿器科クリニックを目指して2024年10月に開院されました。

▶診療内容について教えてください。

腎臓から膀胱、前立腺、尿道まで尿に関する悩みのスペシャリストとして、大学の附属病院や中核病院で経験を積んできました。クリニックには、男女問わず、小さなお子さまから高齢の方まで幅広く受診いただいています。

痛みを伴う検査はほとんどなく、多くは問診、検尿、腹部超音波検査で診断・治療が可能です。専門はがん治療ですが、近年注目されている男性更年期の治療や、膀胱炎、過活動膀胱、性感染症治療も得意としています。

▶清潔感のある院内に充実した設備が整っています。

細径で痛みの少ない軟性膀胱鏡の他、レントゲンもあり、正確な診断が行えます。過活動膀胱や尿失禁に対して、2024年9月に大阪市内で初導入した干渉低周波治療機もございます。

▶メッセージをお願いします。

地域の基幹病院で手術を含む多くの治療経験を持っています。病院と同レベルの診断・治療を行いながら、気軽に何でもご相談いただけるよう、地域のかかりつけ医として尽力いたします。

ももぞの泌尿器科クリニック

診療科目：泌尿器科

〒550-0012 大阪市西区立売堀6-3-8
フレスポ阿波座2F
TEL 06-6537-7637



院長 桃園 宏之 Hiroyuki Momozono

●アクセス

Osaka Metro
中央線・千日前線
「阿波座」駅より徒歩すぐ



公式ホームページ



Doctor's Message

みなさん、靴は正しく履けていますか？

From 皮膚科 庄田裕紀子医師

サイズが合っていない、だらしなく靴を履いていると、靴ずれ、タコやうおのめ、巻き爪のみならず、みずむしにもなりやすくなりますよ。よい靴は甲の深い紐靴で、サイズは痛くない程度に少し小さめの物です。大きめの靴は足に優しくありません。紐は横に1列のデザイン結びではなく、バツテンにして結びましょう。上から2、3穴までの紐をしっかり緩めたら、足を靴に挿入。爪先を上げて、そのまま踵をトントンと地面に当てましょう。踵が靴の後ろにしっかりとハマったら、紐を下からきゅっきゅっとしっかりと締めて結びましょう。足の甲が靴にしっかりと固定され、爪先には隙間があり、靴の中で足が動かない、これが正しく履いた

靴の状態です。でも、脱ぐ時面倒くさくて大変じゃない？と言うそのあなた！靴とはそもそも屋内でも靴を脱がない西洋から来た物です。家では土足禁止の日本の履物は下駄か草履です。昔はいちいち足を洗って家に入っていたのですから、靴紐を緩めるくらい、面倒ではありませんよね。

さあ、正しくフィットした靴を履いて、姿勢良く、足もと軽やかに春を過ごしましょう。



「看護の日」イベント開催

「看護の日」は、看護の心・ケアの心・助け合いの心を国民全体で分かち合うことを目的として、旧厚生省により1990年に制定された記念日であり、5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日に由来しています。当院では、通院患者さまとご家族に健康への関心を高めていただくとともに、看護師の活動や専門性を知っていただく機会として看護の日のイベントを開催しています。ぜひ、お越しください。

5月12日は



看護の日

看護の心をみんなの心に

日時 2026年5月12日(火) 9:00~12:00

場所 1階正面玄関横

内容(予定)

●健康チェックコーナー

血管や骨、脳の年齢を測定します。

●認定看護師の紹介

各領域認定看護師の活動を動画やスライドでご紹介します。

※その他、さまざまな催しを予定しています。



2026年度 市民公開セミナーのご案内

当院では、市民の皆さまに医療に関する理解を深めていただき、健康促進にお役立ていただくことを目的にセミナーを開催しています。参加費は無料ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

2026年3月16日現在

開催日	テーマ(仮題)	担当科(予定)
2026年6月25日(木) 14:00~15:00	こどもの気管支喘息、アレルギー性鼻炎	小児科
9月7日(月) 14:00~15:00	知っておきたい婦人科がん (子宮頸がん・体がん、卵巣がん、腹膜がん)	婦人科
12月3日(木) 14:00~15:00	もっと知ろう、乳がんのこと	外科



※セミナー開催予定は予告なく変更する場合がございます。スケジュール、最新情報、申し込み方法等詳細は、当院ホームページでご確認ください。

ゴールデンウィークの診療体制 ゴールデンウィークの診察日は下記の通りです。ご注意ください。

2026年4月28日(火)	29日(水)	30日(木)・5月1日(金)	2日(土)~6日(水)	7日(木)
通常診療	通常診療なし (急患のみ)	通常診療	通常診療なし (急患のみ)	通常診療

住友病院の理念

信頼性の高い医療で社会に貢献

運営方針

- 高水準、良質の医療(高い評価の臨床研修病院)
- 患者さまのQuality of Lifeを重視した診療
- 快適環境
- 豊かな国際性

患者権利

住友病院は以下に掲げる患者さまの権利を尊重いたします。

1. 個人の尊厳が尊重される権利
2. 十分な説明のもとに最善の医療を受ける権利
3. 医療行為に関し、自らの意思で選択する権利
4. 自分の受けている医療について知る権利
5. プライバシーが保護される権利
6. セカンドオピニオンを求める権利



詳細はこちら

今号の広報誌「Sound」の取材に関しては、マスク着用のうえ実施し、撮影時のみマスクを外して行っています。

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-20

TEL.06-6443-1261(代表)

【受付時間】8:30~11:30、12:30~15:00

「Sound」には、「音」のほかに「聴診する」「健康な」「確かな」という意味も含まれています。

住友病院だより「Sound」◎発行人:金倉 謙 ◎編集:細島 研一、北條 由美子、川原 知子、小島 夢輝

「こんなことが知りたい」など、本誌についてのご意見・ご感想を当院ホームページの「お問い合わせ」フォームにぜひお寄せください。よりよい誌面づくりの参考にさせていただきます。住友病院だより【Sound vol.69】2026年4月1日発行



住友病院は、大阪府がん診療拠点病院です。

住友病院

住友病院

検索

